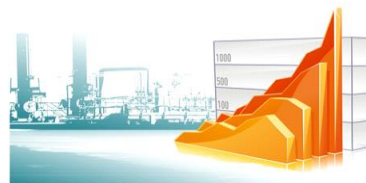


# ぎふ経済レポート



令和2年8月分  
岐阜県商工労働部

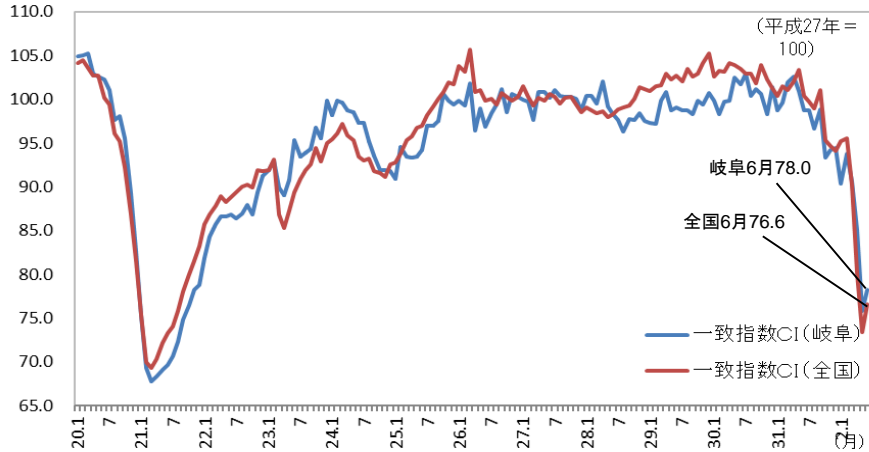
※企業等へのヒアリングは 8月25日～27日を中心に実施し、9月11日に作成。

# 景気動向

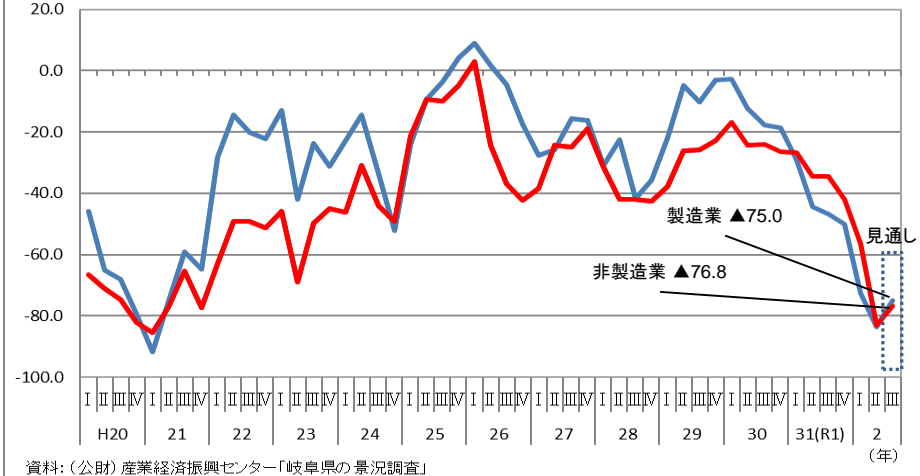
- 6月の景気動向指数(一致指数)は、78.0で前月比2.2ポイント改善した。
- 7月の県内中小企業の景況感は、▲80で前月比3ポイント悪化した。

- 7-9月の景況DI見通しは、製造業で8.8ポイント、非製造業で6.4ポイント改善した。
- 同売上高DI見通しは、製造業で▲12.0ポイント、非製造業で▲5.4ポイント悪化した。

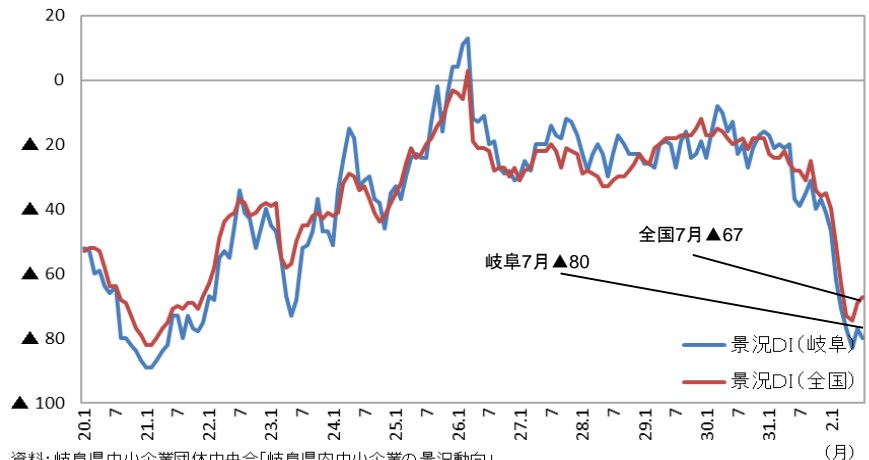
岐阜県及び全国の景気動向指数(一致指数)の推移



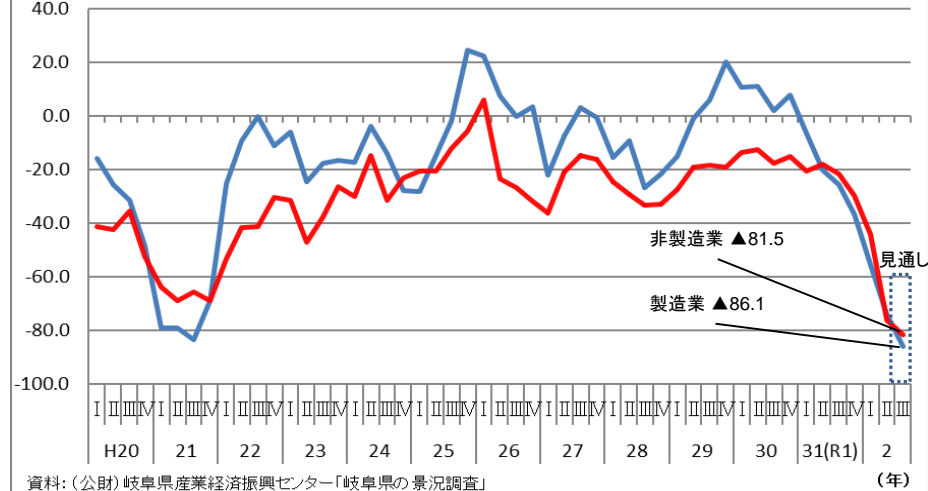
県内企業の景況DI(増加-減少)の推移



岐阜県及び全国の中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移

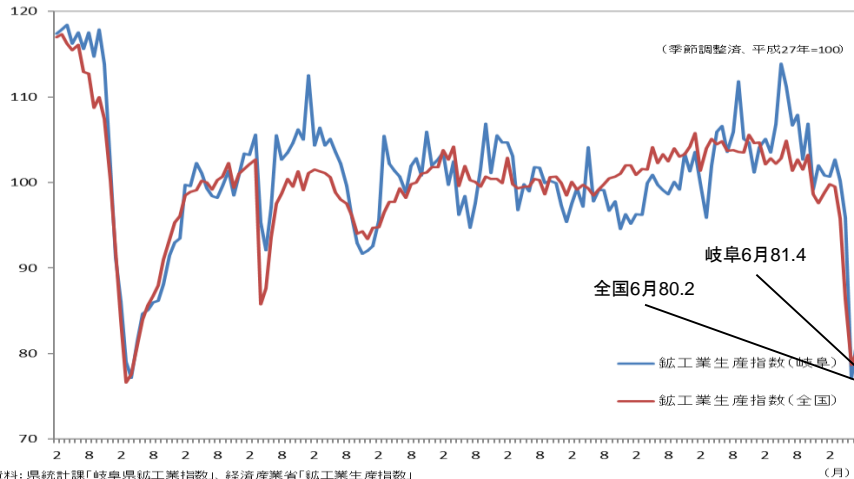


# 製造業

- 6月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、81.4で前月比5.6%と上昇した。
- 前月比では、主な産業の全てで上昇した。

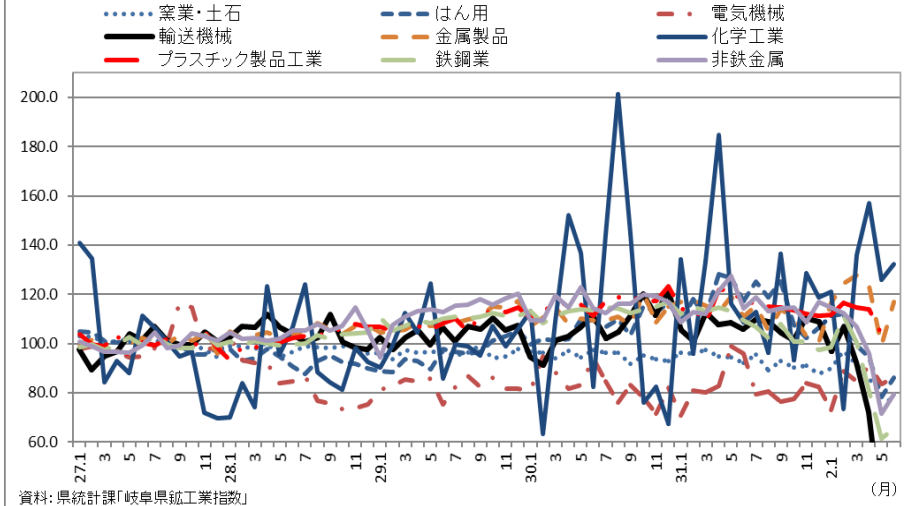
- 6月の主な産業の指数は、輸送機械で前月比24.2%、金属製品で同17.6%、非鉄金属で同11.0%、鉄鋼業で同7.2%など、全ての産業で上昇した。

鉱工業生産指数の推移



主な産業の鉱工業生産指数

(季節調整済、平成22年=100)

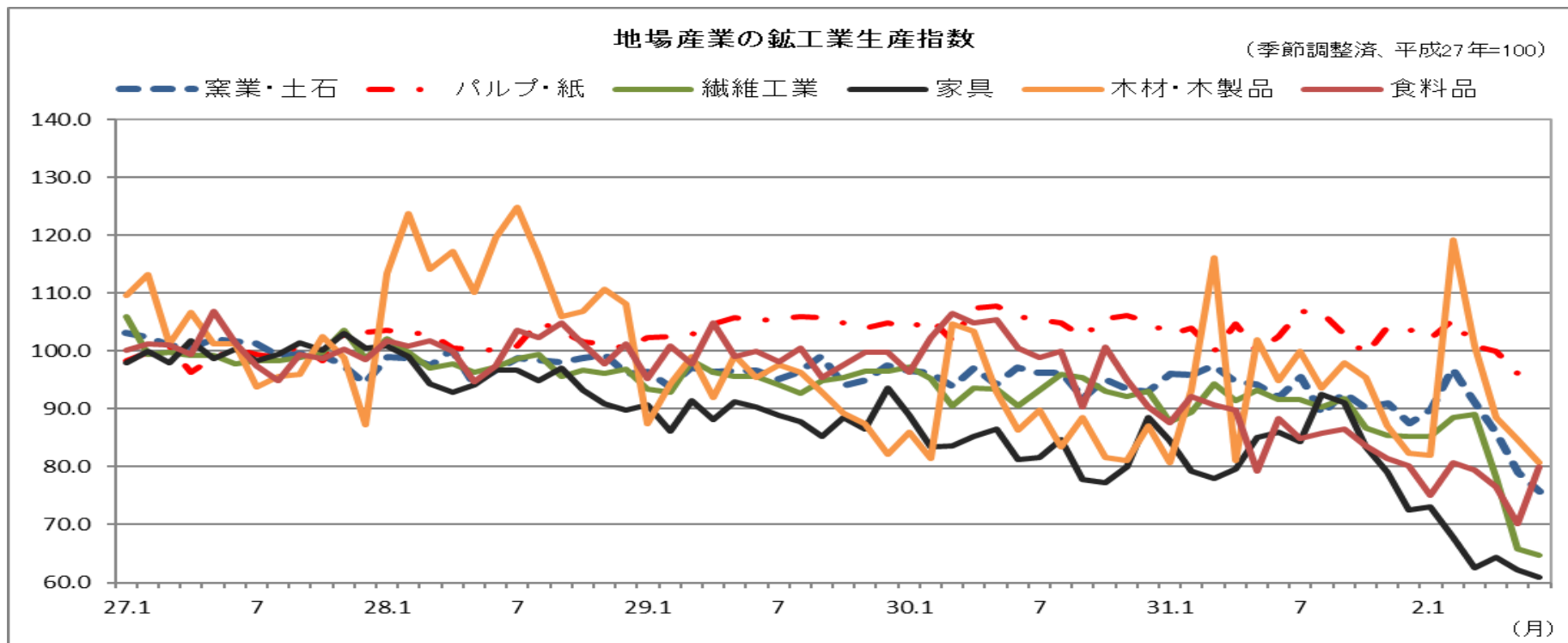


## 現場の動き (※新型コロナウイルス関連はP6にも掲載)

- ◆自動車関係については、7月から徐々に回復傾向にある。工作機械関係については、秋口から年明けにかけて中国向けが増産になる予定。(輸送用機械)
- ◆受注及び売上は、9月、10月には例年程度までは回復するだろう。(輸送用機械)
- ◆新型コロナウイルス感染拡大前に立てた計画に対して、8月は約8割、9月は約9割まで回復となる見込み。(輸送用機械)
- ◆受注及び売上は、5月に落ち込んだが、6月からは戻ってきており、8月、9月は新型コロナウイルスの影響はほぼないと考えている。(非鉄金属)
- ◆自動車関係の動きは完全に戻ってきた。国内工場は通常通り稼働している。中国の工場は、完全には戻ってきてはいないが、ボトムは脱しており、緩やかに戻ってきている。(非鉄金属)
- ◆建設機械関連は中国向けメーカーが好調な為、部品の輸出が伸びている。(鉄鋼)

## 製造業-2

○6月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、食料品で前月比14.0%、パルプ・紙で同1.0%と上昇したが、木材・木製品で同▲4.6%、窯業・土石で同▲4.1%、家具で同▲1.9%、繊維工業で同▲1.7%となるなど、多くの地場産業では低下した。



### 現場の動き

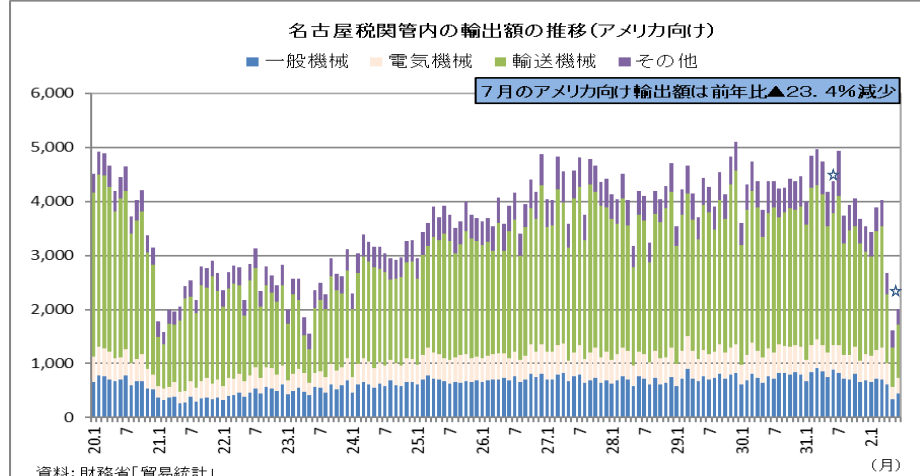
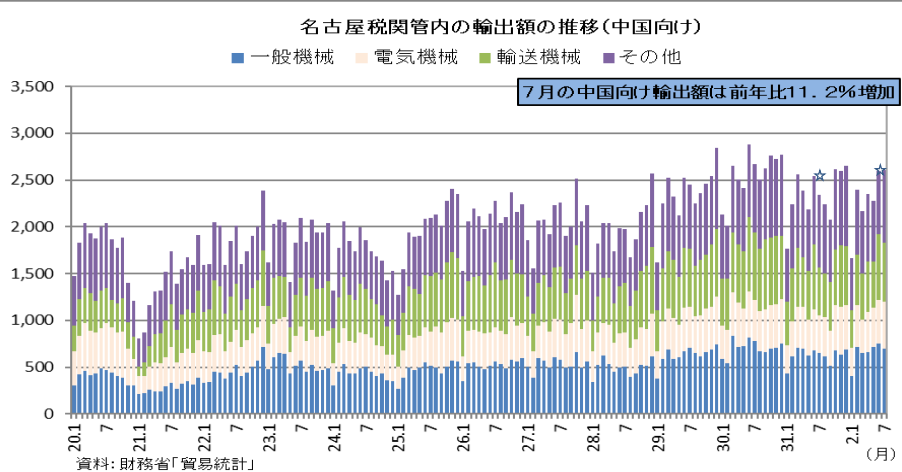
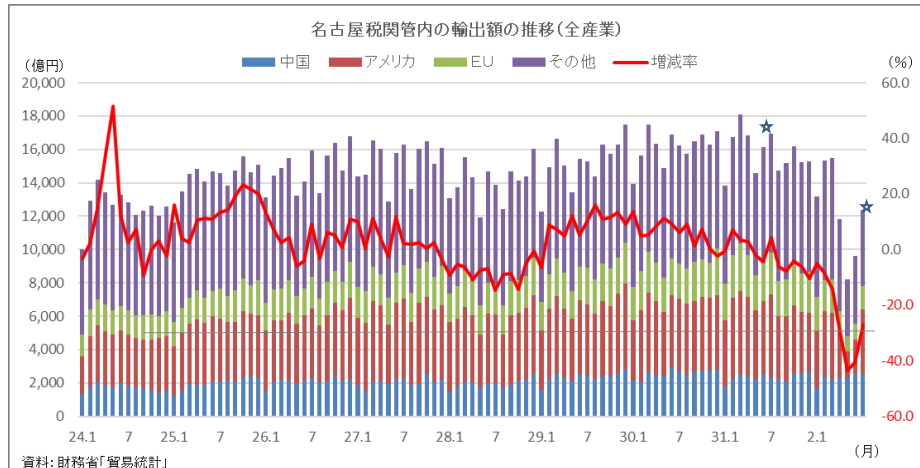
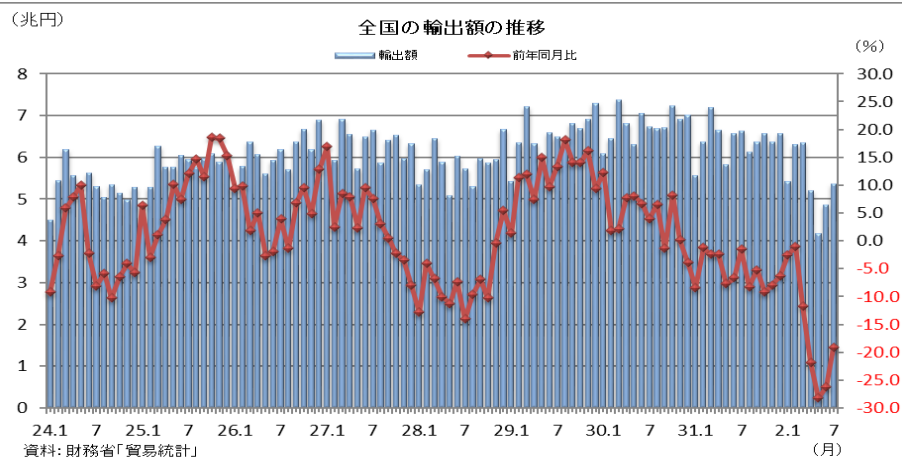
(※新型コロナウイルス関連はP6にも掲載)

- ◆4月に比べれば状況は改善されたが、前年同時期と比較し半分程度の売上に留まっている。(繊維)
- ◆6、7月の受注及び売上は前年同月比で同水準。中国への輸出がやや戻ってきた。9月商戦を見込んで、新型コロナウイルス感染症拡大の第2波が到来する前に注文を受けたものもある。(窯業)
- ◆ネット販売は伸びたとはいえ全体からみれば比率は低い。(窯業)
- ◆前年度同時期と比較し、受注及び売上は2~3割減っている。対面での打ち合わせができないのが痛い。(木工)

# 輸 出(名古屋税関管内)

○7月の輸出額(全国)は、5兆3,691億円と前年同月比▲19.2%と20ヶ月連続で減少となった。  
 ○7月の輸出額(名古屋税関内)は、1兆2,359億円と前年同月比▲27.0%と減少し、12ヶ月連続で前年同月を下回った。

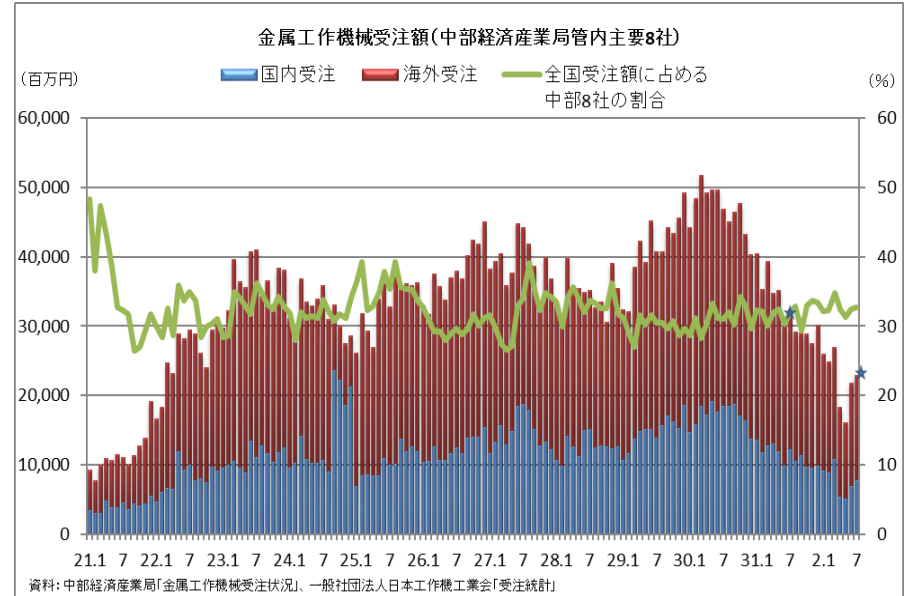
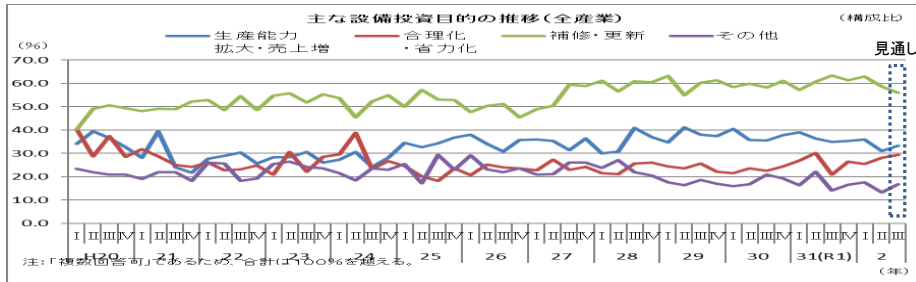
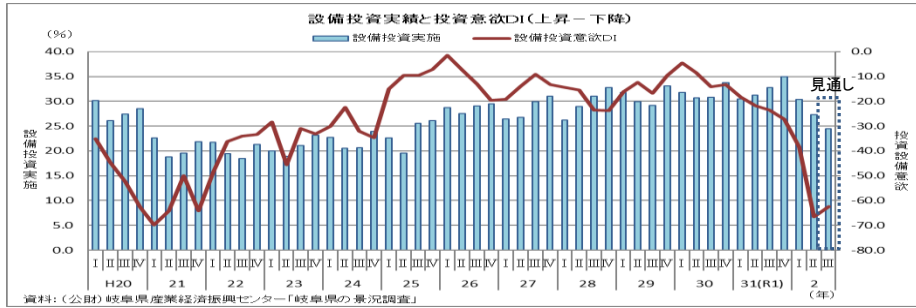
○中国向けは、全体で前年同月比11.2%増加した。その内、電気機械で前年同月比24.3%、輸送用機械で同23.4%、一般機械で同7.4%増加した。アメリカ向けは、全体で前年同月比で▲23.4%と減少し、12ヶ月連続で前年を下回った。その内、輸送用機械で前年同月比▲29.9%、輸送用機械で同▲17.2%と減少し、電気機械では同3.8%増加した。



# 設備投資

○7-9月期の設備投資実施見通しは前期比▲2.8ポイント低下、設備投資意欲DI見通しは同4.0ポイント上昇。設備投資実施見通しの目的別では、「生産能力拡大・売上増」で前期比2.2ポイント、「合理化・省力化」で同1.2ポイントと上昇し、「補修・更新」で同▲2.7ポイントと減少した。

○7月の金属工作機械受注額は、全体では前年同月比▲29.4%と21ヶ月連続で前年を下回った。内訳は国内受注では同▲36.5%と20ヶ月連続で前年を下回り、海外向けも同▲25.1%と21ヶ月連続で前年を下回った。



## 現場の動き

(※新型コロナウイルス関連はP6にも掲載)

- ◆20年度に計画していた設備投資の見直しを行い、投資額の圧縮を図っている。(輸送用機械)
- ◆工場敷地を有効活用できるように造成中。(輸送用機械)
- ◆機械は導入予定。小さい建物や修繕の予定はあるが、何億円もの大きな建物の建設計画は、構想はあるものの直近に行う予定にはない。(非鉄金属)
- ◆合理化に向けた設備投資をしていく予定。(プラスチック製品)
- ◆県の「サプライチェーン対策等生産設備導入事業費補助金」で機械設備を導入予定。(プラスチック製品)
- ◆設備は老朽化しているものの、先行き不透明につき様子見している。(窯業)

## 製造業関係における新型コロナウイルスの影響について

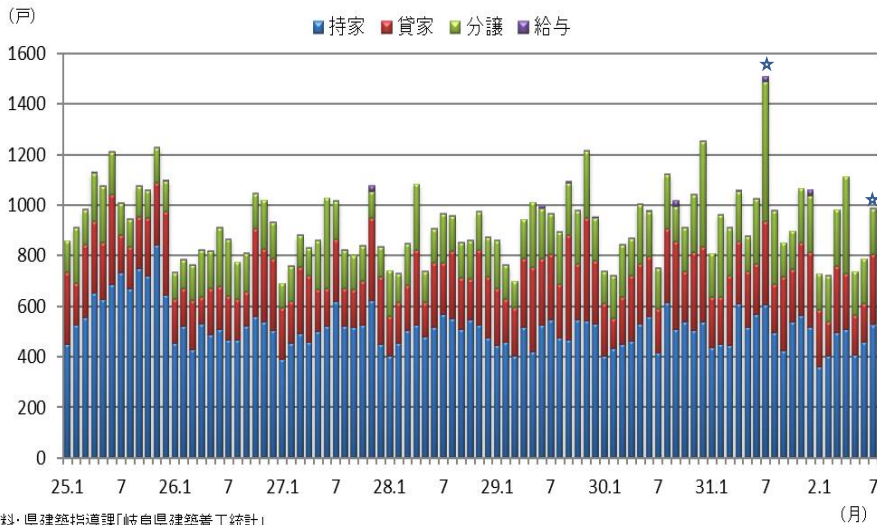
- ◆輸出関連の売上げがやや回復傾向にある。(食品製造)
- ◆国内は顧客が稼働停止や減産となっており、当社も生産に影響が出ている。(輸送用機械)
- ◆全社員に非接触体温計を配布。また、訪問者用、社員用に検知器を設置し、体調管理を徹底している。(輸送用機械)
- ◆新型コロナウイルス感染症予防対策として本社を中心にテレワークを実施した。この結果を踏まえて今後の定着化を検討している。また、職場クラスターの発生を防ぐため、経団連や岐阜県のガイドラインに基づき工場内での感染予防に努めている。(輸送用機械)
- ◆新型コロナウイルス感染症の影響により、国内及び海外からの受注は相変わらずない状況で、6月頃よりもっとひどくなっていると感じる。海外からの引き合いはない。(輸送用機械)
- ◆8月はお盆休みの影響で例年落ち込むところ、思ったより落ち幅が少ない。国内に比べて海外向けが堅調。国別では中国の戻りがよい。自動車に比べてオートバイの回復には時間がかかる見込み。雇用調整は8月に入り解除した。(金属加工)
- ◆ディーラーから自動車関係の開発が遅れていると聞いており、こちらにも仕事が入ってこないと考えている。(生産用機械器具)
- ◆新型コロナウイルス感染症拡大の第2波による影響が懸念されるが、全ての分野で回復基調となる見通し。また、農機具関連についても北米の需要が回復傾向にあり、受注が対前年同期比80%までになった。(鉄鋼)。
- ◆新型コロナウイルス感染症拡大により顧客側が生産調整をしたが、当社のような下請けメーカーに対する納入調整が遅く、内示計画の後ろ倒しや取り消しが多発した。(鉄鋼)
- ◆国内と中国を中心に受注は継続しているが、当面景況感が上向く状況ではない。(金属加工)
- ◆業況については、7月は前年同月比で25%減少だったのに対し、8月は同比12%減少と減少幅が小さくなってきている。9月以降は増加に転じる見込みである。(産業用機械)
- ◆大手工作機械メーカーの受注も減少傾向が続いており、工作機械業界全体が回復していない状況である。生産稼働率は60%程度である。(金属製品)
- ◆新型コロナウイルス感染症拡大の第2波の影響でテレワークが再度始まり、都会でのオフィス街における昼食が減少。当社の売上に影響を与えている。(プラスチック製品)
- ◆新型コロナウイルス感染症拡大の第2波の影響もあり、ホテル・レストランの新築オープンやアフターコロナへの動きが鈍くなっている。(陶磁器)
- ◆祭・イベントの需要が激減したことが売上げに影響。通販の売上げが底支えしている状況。(紙)

# 住宅・建築投資

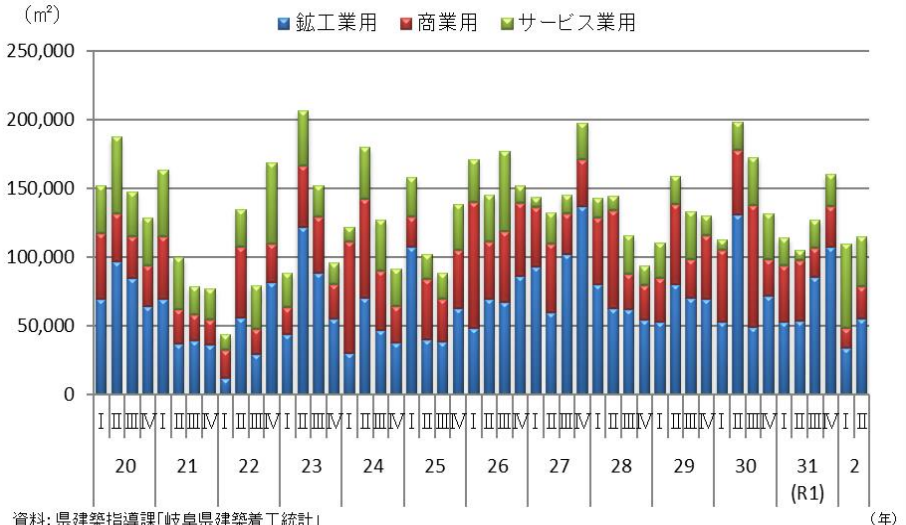
- 7月の住宅着工戸数は、前年同月比▲34.6%と前年同月を下回った。
- 分譲で前年同月比▲66.8%、貸家で同▲16.9%、持家で同▲12.7%減少した。

- 4-6月期の非居住用の建築着工床面積は、商業用で前年同期比▲46.5%と減少したものの、サービス業用で同373.3%、鉱工業用で同2.7%と増加したことから全体としては同9.1%と増加した。

新設住宅着工戸数の推移



県内建築着工床面積(非居住用・用途別抜粋)



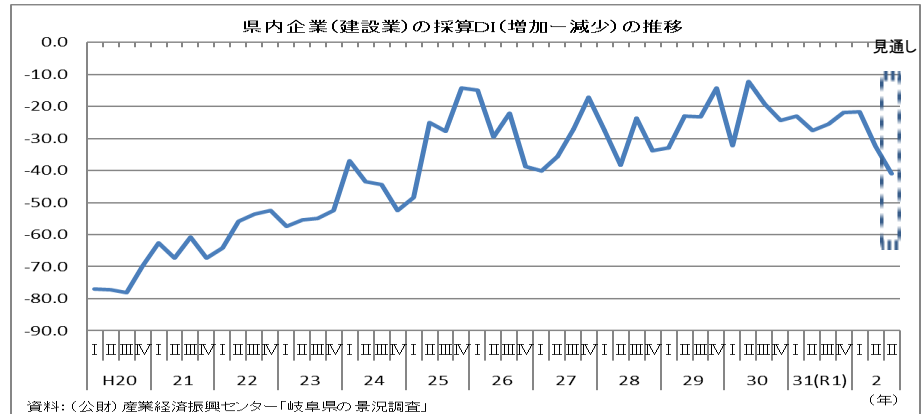
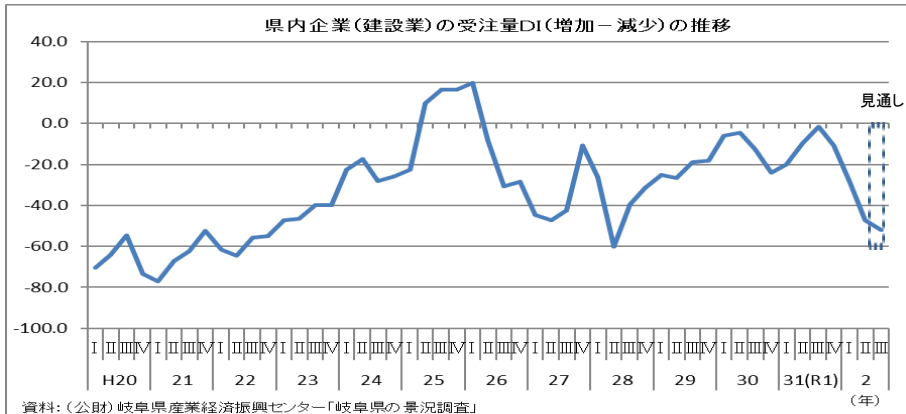
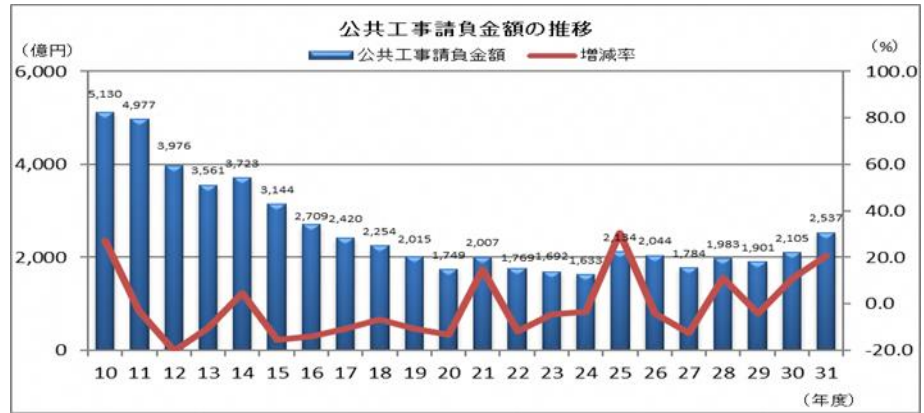
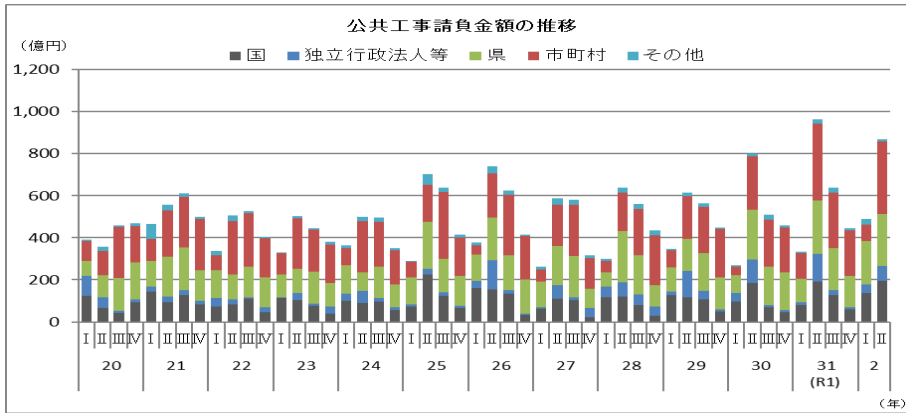
## 現場の動き

- ◆学校や幼稚園、病院関連施設、老人福祉施設など大型案件の問い合わせがあり、受注につなげることができるよう努めている。(木材製品製造)
- ◆新型コロナウイルス感染症拡大の影響で需要が減退し国産材と国産合板の価格は底値ではないかと思われる。輸入材と輸入合板の価格は、今後どうなるか予想が付きにくく、注視している。(木材製品製造)
- ◆8月も業況は良くない。木材業界全体が悪い。(木材製品製造)
- ◆原木が入荷できないため製品が納入できない。新型コロナウイルス感染症拡大の影響や豪雨災害で作業道が使えず効率的に原木が出せないためと思われる。(木材製品製造)
- ◆住宅ローン減税の控除期間の申請期限が9月末のため、駆け込み需要が発生している。(住宅建築)



# 公共工事

- 4－6月期の発注者別の公共工事請負金額は、国で前年同期比1.9%増加したものの、独立行政法人等で同▲47.2%、市町村で同▲6.2%減少するなど、全体で同▲9.9%減少した。
- 県内建設業の7－9月期の受注量DI見通しは前期比▲5.0ポイント、同採算DI見通しは同▲8.5ポイント低下した。



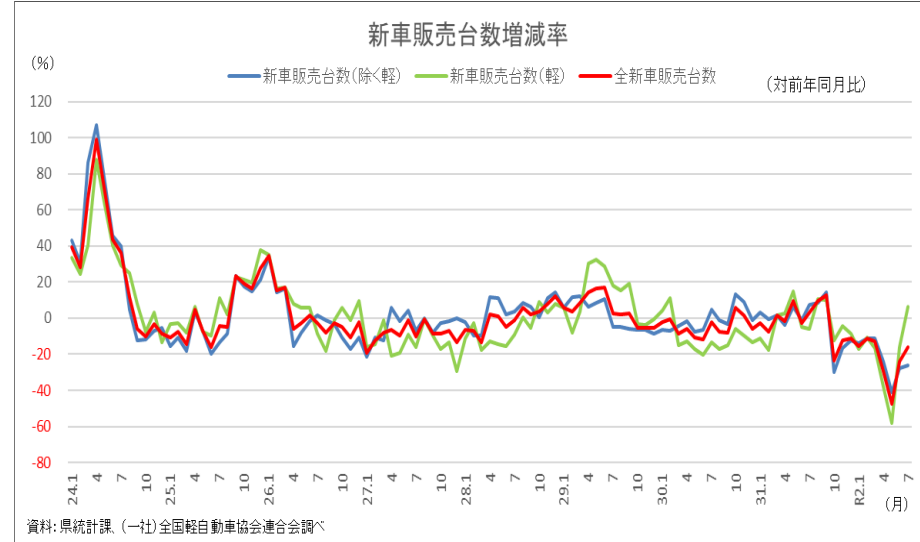
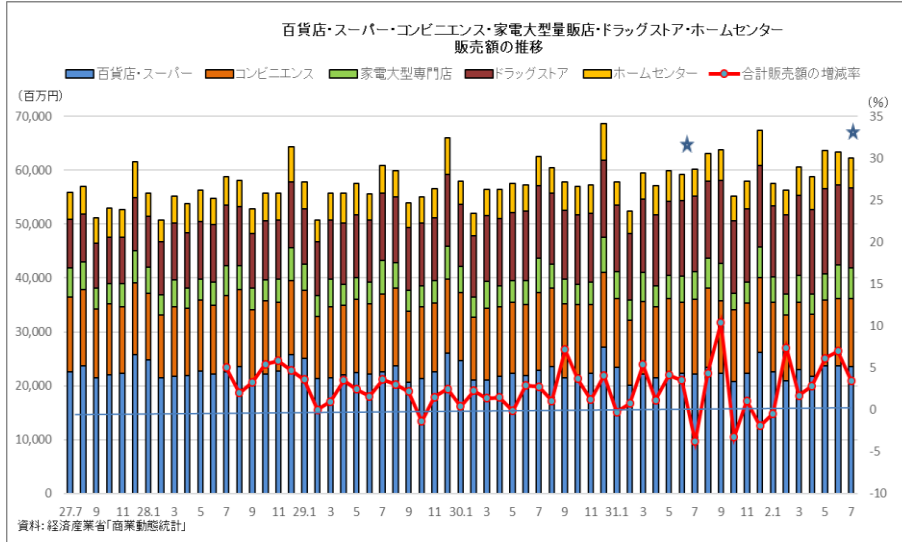
## 現場の動き

- ◆昨年と同程度の仕事量をこなしており、手持ち工事が十分の状態。短期的には丁度よい状態ともいえる。
- ◆国、県の今後の建設投資の減少が懸念される。(以上、建設)

# 個人消費(流通・小売)

○7月はコンビニで前年同月比▲9.5%減少したものの、ホームセンターで同13.1%、家電大型専門店と同10.2%、ドラッグストアで同5.8%、百貨店・スーパーで同3.6%増加し、全体では同3.5%と増加した。

○7月の新車販売台数(除く軽)は、前年同月比▲26.2%と10ヶ月連続で減少したが、軽自動車は同6.1%と10ヶ月ぶりに増加した。  
○合算では同▲16.0%と、10ヶ月連続で前年同月を下回った。

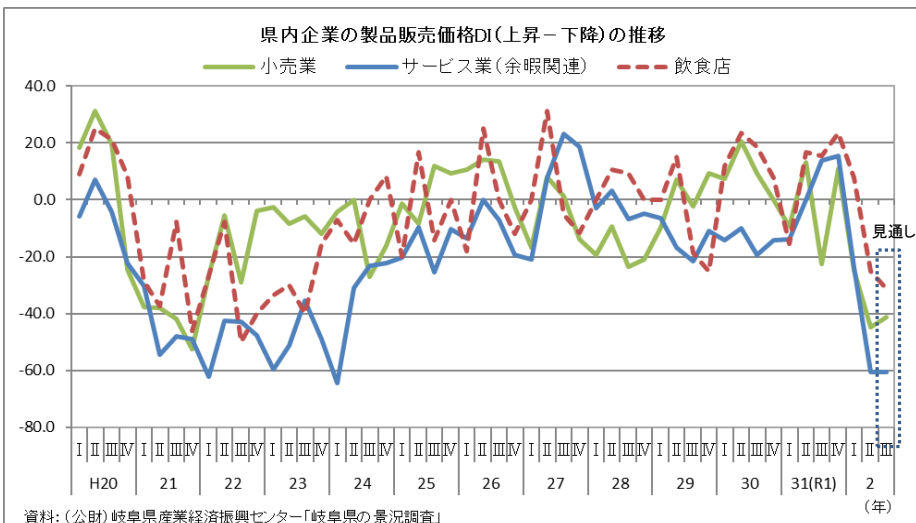
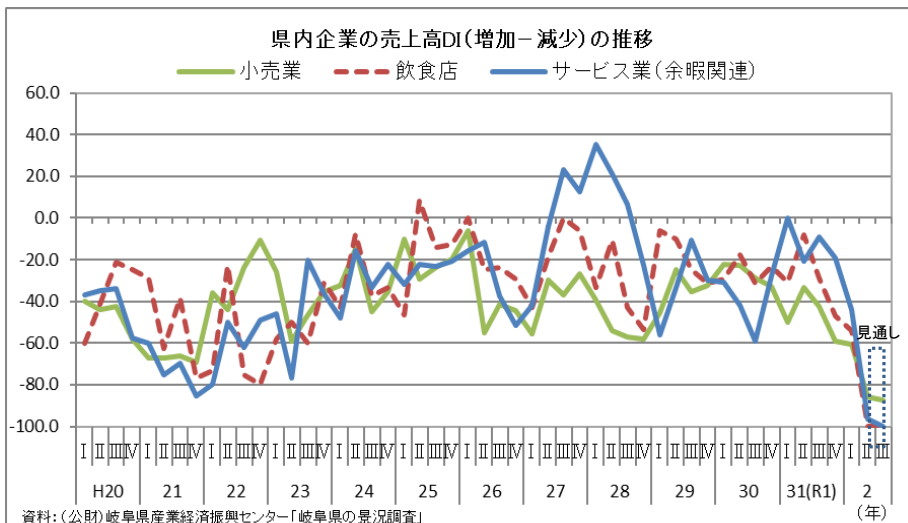


## 現場の動き

- ◆売上と客数が前年同月比で2割減少した。新型コロナウイルス感染症の拡大が一時落ち着いた時期に見られた反動需要が終わったためだろう。夏休みが少なくなっているのも、来客者数の減少につながっている。(岐阜市内大型商業施設)
- ◆需要の変化により、過去のオペレーションでは対応できない部署があり、新規採用や人員再配置にて調整中。(各務原市内大型商業施設)
- ◆売上は先月から大きな変化はない。アパレルの不調も続いている。(大垣市内大型商業施設)
- ◆キャンプアウトドア用品は新型コロナウイルス感染症が拡大する前から好調を維持している。(岐阜市内大型スポーツ用品店)

## 個人消費(流通・小売)－2

- 7－9月期の売上高DI見通しは、サービス(余暇関連)では前期比▲3.6ポイント低下。小売業で同▲1.3ポイント低下し、小売業と飲食店ではDI値見通しがマイナス100となった。
- 同じく販売価格DI見通しは、飲食店で前期比▲6.2ポイント低下し、小売業で同3.5ポイント上昇した。サービス業(余暇関連)では、前期比同水準となった。



### 現場の動き

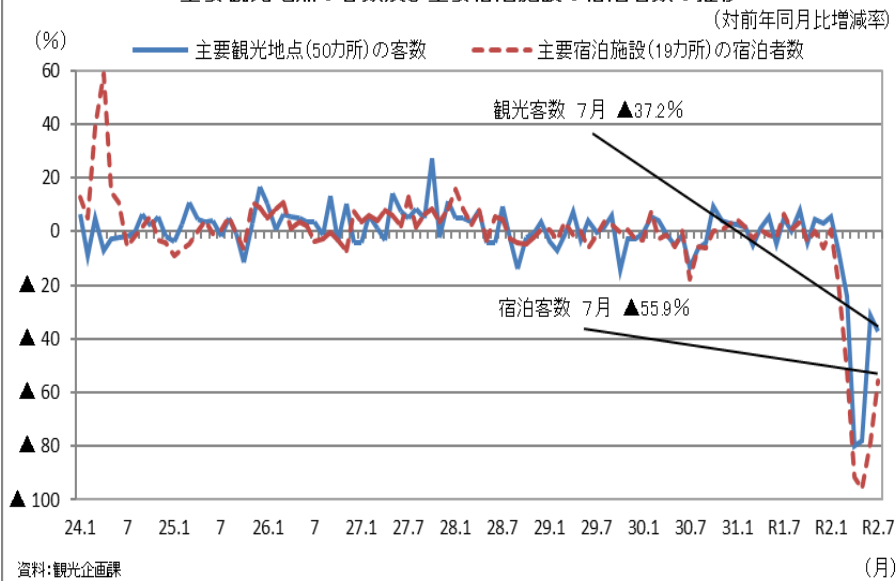
- ◆規模を縮小してイベントを実施。和菓子店の売上は前年同月比64%増加。飲食店は同▲41%、ブティックは同▲30%減少。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で名古屋の卸問屋の廃業が多く、仕入れに影響が出ている。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆日用品・雑貨店の売上は前年同月比▲20%減少。新型コロナウイルス対策用品のうち、パーティー用品、使い捨て手袋などが売れた。梅雨明けがずれ込み、夏物は盛り上がり欠けた。和菓子店は同▲20%程。6～7月にかけて売上は回復しつつあったが、第2波を機に状況が変わった。(大垣市商店街)
- ◆家電販売店の売上は前年同月比20%増加。カメラ・プリント店は、小売部門で同▲40%、撮影部門で同▲10%減少。家電販売店からは、業界のなかには新型コロナウイルスのせいにしてやる気がなくなっている事業者がいる、との声もあった。(高山市商店街)
- ◆酒類販売の売上は前年同月比▲10%減少。緊急事態宣言前の状況まで回復しつつあったが、第2波からギリ貧の状態が続いた。時計・宝石店は前年同月並み。(多治見市商店街)

# 観光

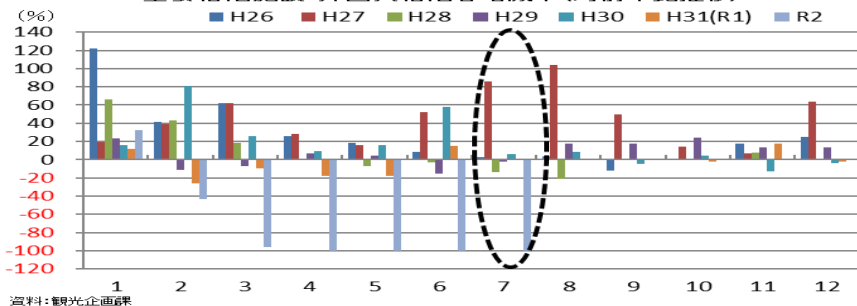
○主要観光地における7月の観光客数は、前年同月比▲37.2%と減少し、6ヶ月連続で前年同月を下回った。主要宿泊施設における宿泊者数は、前年同期比▲55.9%と減少し、6ヶ月連続で前年同月を下回った。

○7月の主要観光施設における外国人宿泊者数は、前年同月比▲100%減少と大幅に減少し、6ヶ月連続で前年同月を下回った。

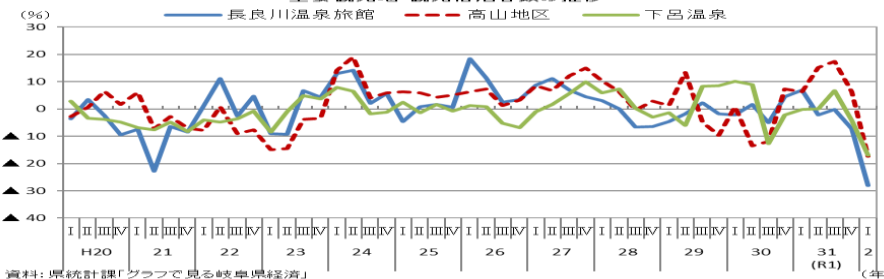
主要観光地点の客数及び主要宿泊施設の宿泊者数の推移



主要宿泊施設 外国人宿泊客増減率(対前年比推移)



主要観光地 観光宿泊客数の推移 (前年同期比増減率)

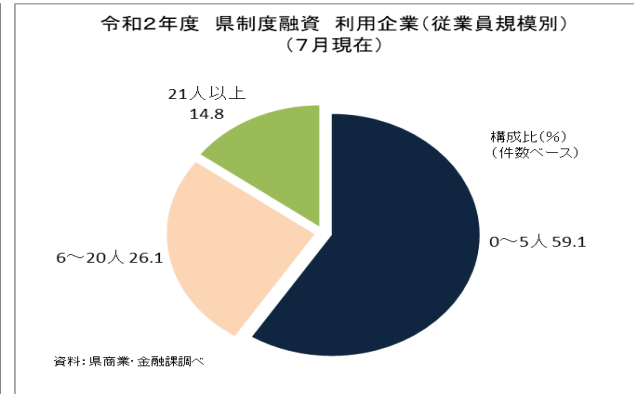
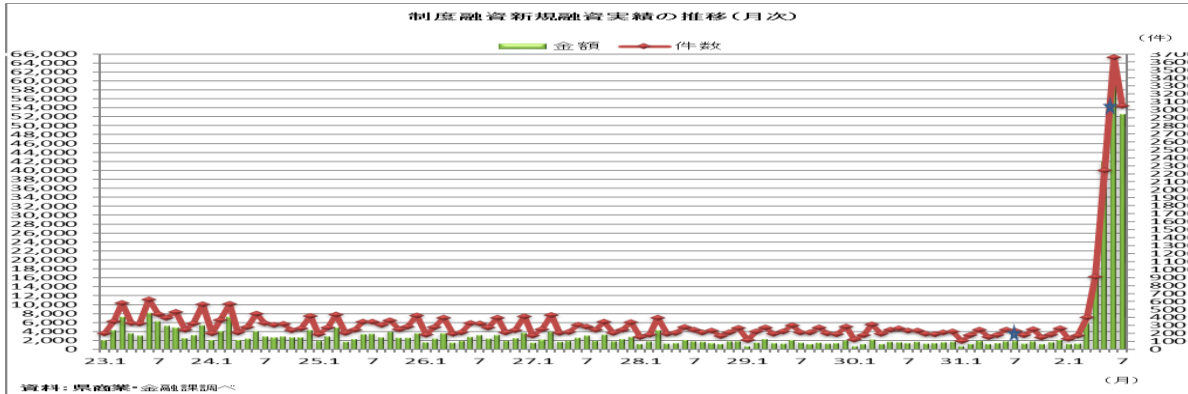
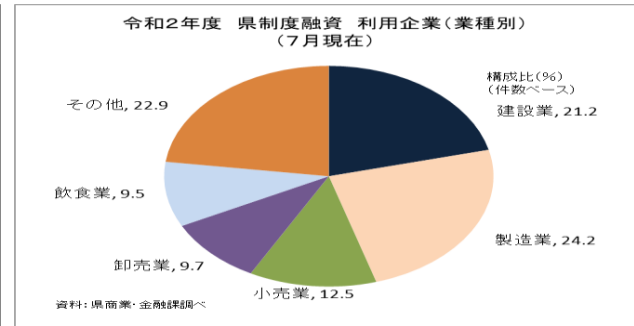
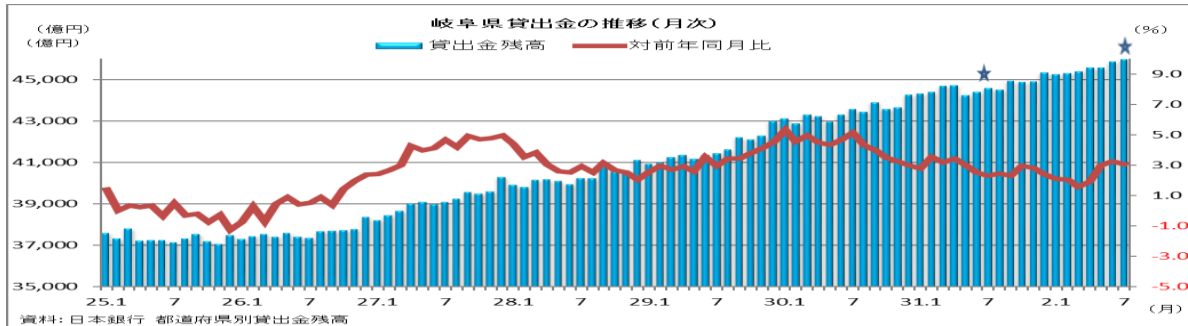


## 現場の動き

- ◆GoToトラベルの効果は感じられない。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆個人はGoToトラベルを利用するかどうかもまだ様子を見ている感じ。(郡上市内の宿泊施設)
- ◆GoToトラベルで動きはあったものの、第2波によるキャンセルの方が大きい。(奥飛騨の宿泊施設)
- ◆お盆の予約は前年の6割程度であったが、その後はかなり厳しい状況。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆豪雨による土砂崩れなどの影響で道路が寸断したことなどにより予約がキャンセルになった。(奥飛騨の宿泊施設)
- ◆豪雨によるキャンセルが1,000人程度あり、大打撃であった。(下呂市内の宿泊施設)
- ◆雇用調整助成金が継続されなければ、今の人員の確保は難しい。(高山市内、奥飛騨の宿泊施設)

# 資金繰り

- 7月の岐阜県貸出金残高は、4兆5,980億円で前年同月比3.1%とプラス基調が続く。
- 7月の制度融資実績は、金額が52,478百万円で前年同月比2,497.4%と大幅に増加した。件数は3,050件で同1,231.9%と大幅に増加した。
- 従業員規模別は、5人以下の事業所が全体の59.1%を占めている。

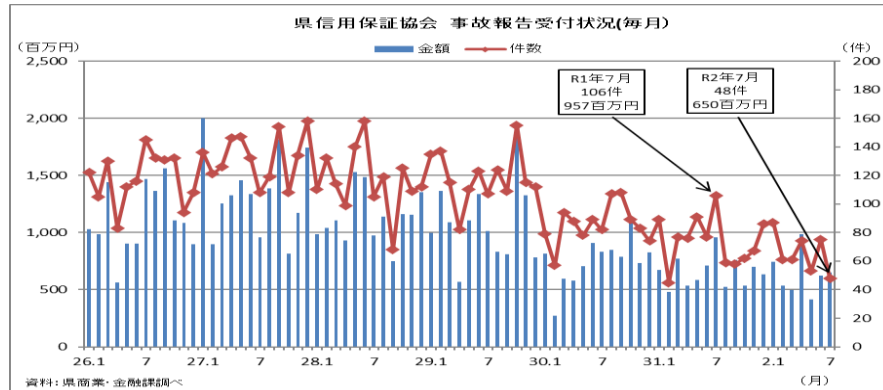
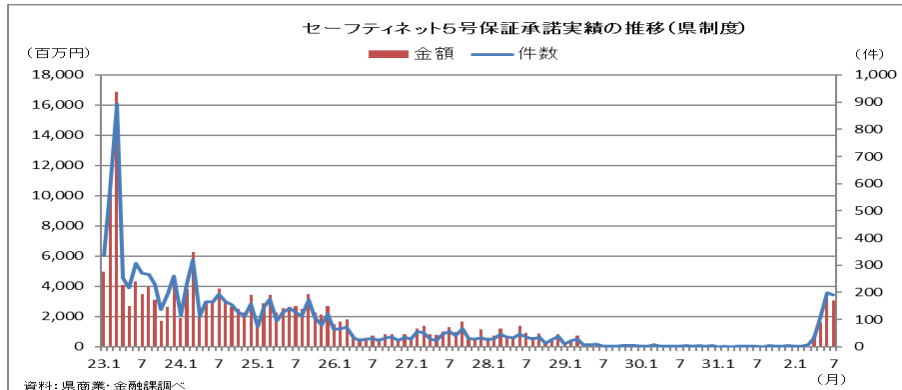
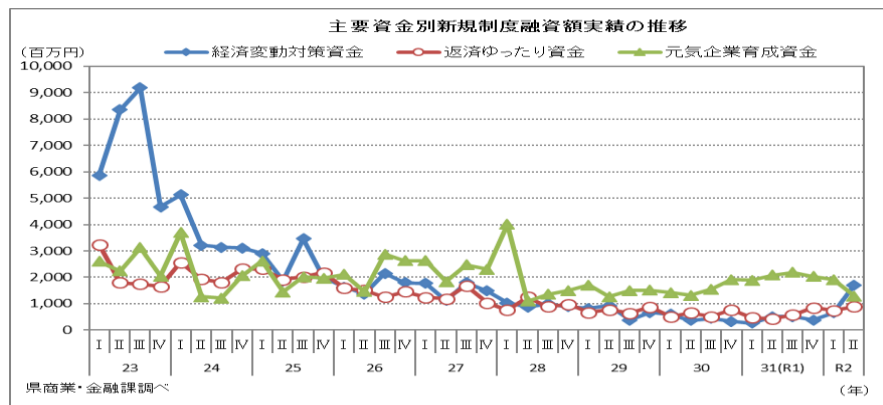
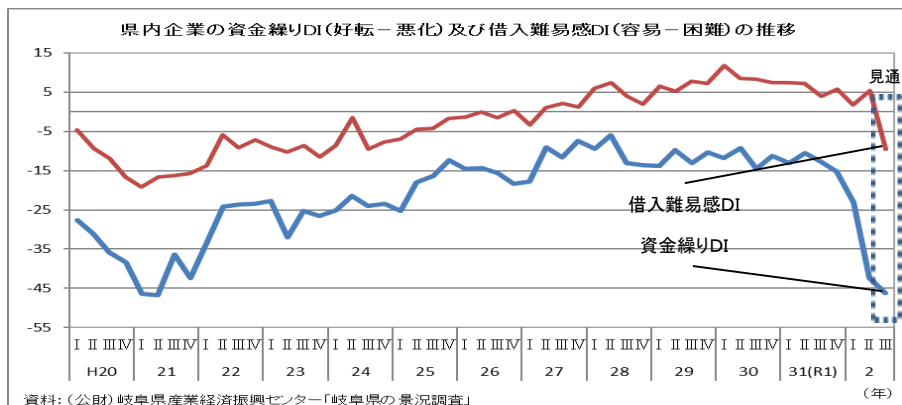


## 現場の動き

- ◆5~7月までは借入の申込が多かったが、8月は落ち着いており、資金調達が一巡しつつあるのではという印象。
- ◆業況は業種によって差がある。飲食業、観光業は非常に悪い。また医療機関も受診を控える人がいることから、個人の診療所は売上が落ち込んでいる。
- ◆融資の9割以上が運転資金。今後、設備投資も出てくるかもしれないが、現状は様子見という所が多い。
- ◆東濃で事業者が多い陶磁器・タイル関係はまだ売上50%減などV字の底の部分が続いている。
- ◆運転資金がひっ迫しているというわけではなく、今後に備えた予防的な目的での借入がほとんど。(以上、金融)

# 資金繰り-2

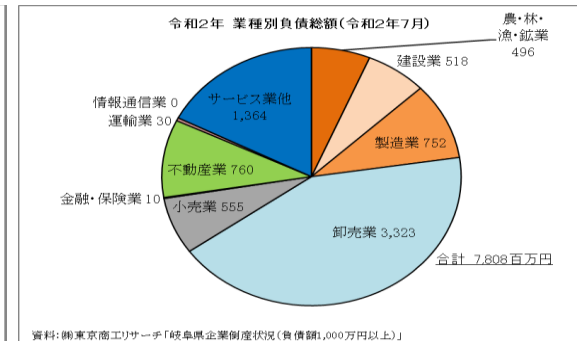
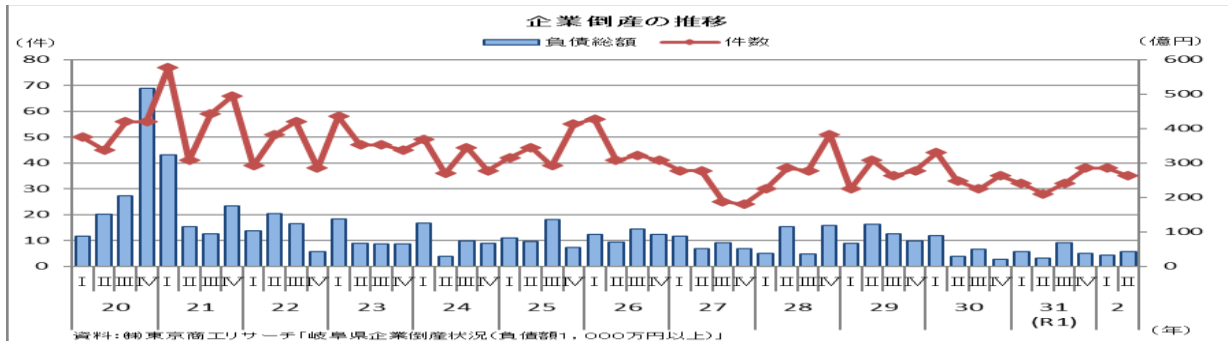
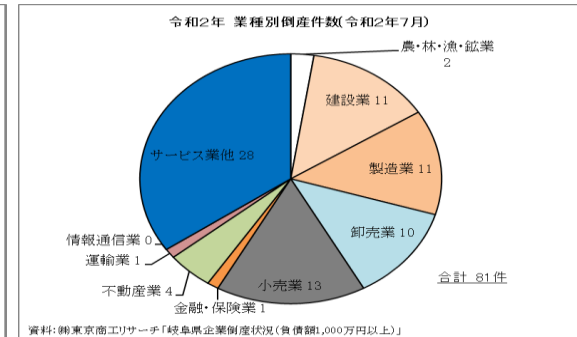
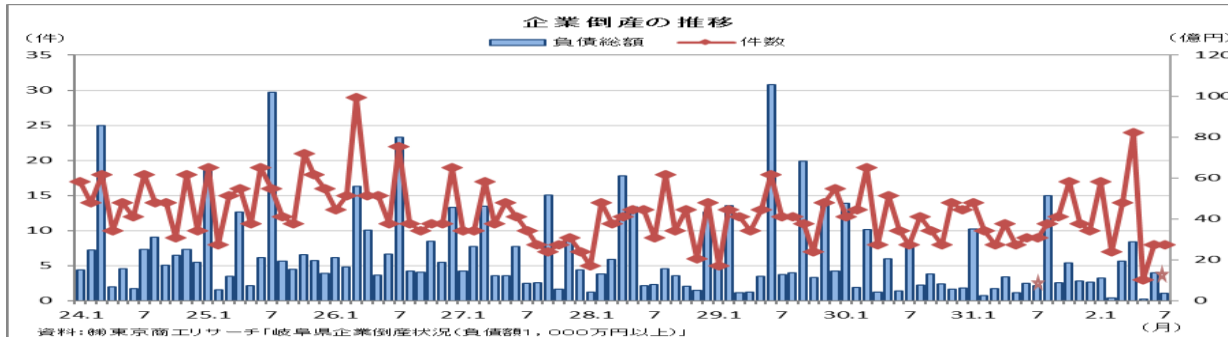
- 7-9月期の資金繰りDI見通しは▲46.2で、前期比▲3.8ポイント悪化した。同借入難易感DI見通しは▲9.6で、同▲15.0ポイント悪化した。
- 4-6月期の主要資金別新規制度融資実績は、経済変動対策資金で前年同期比232.7%と5期連続で増加、返済ゆったり資金で同102.2%と4期連続で増加、元気企業育成資金で同▲38.1%と9期ぶりに減少となった。
- 7月のセーフティネット5号保証承諾実績は、件数が191件で前年同月比189件増加、金額は3,044百万円で同3,027百万円増加した。
- 7月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数は48件で前年同月比▲54.7%と減少し、金額も650百万円で同▲32.1%と減少した。



# 倒産

○7月単月の倒産件数は前月と同じく8件、負債総額は前月比▲985百万円減少の365百万円となった。

○1月から7月までの累計倒産件数は81件となり、前年同期の69件から12件増加。累計負債総額は7,808百万円となり、前年同期の7,441百万円から367百万円増加で推移した。



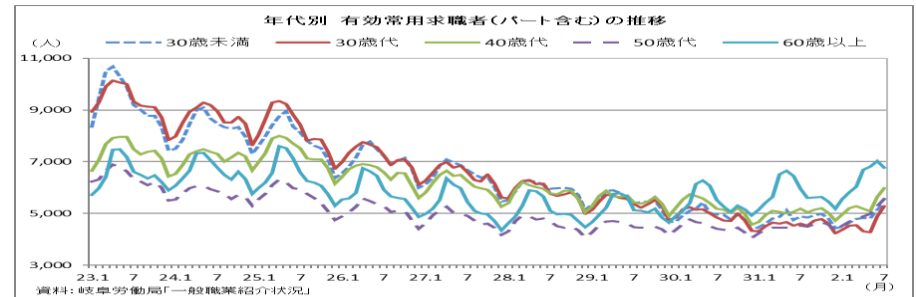
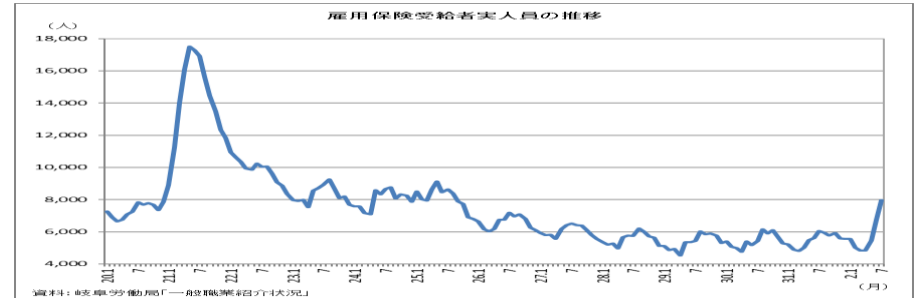
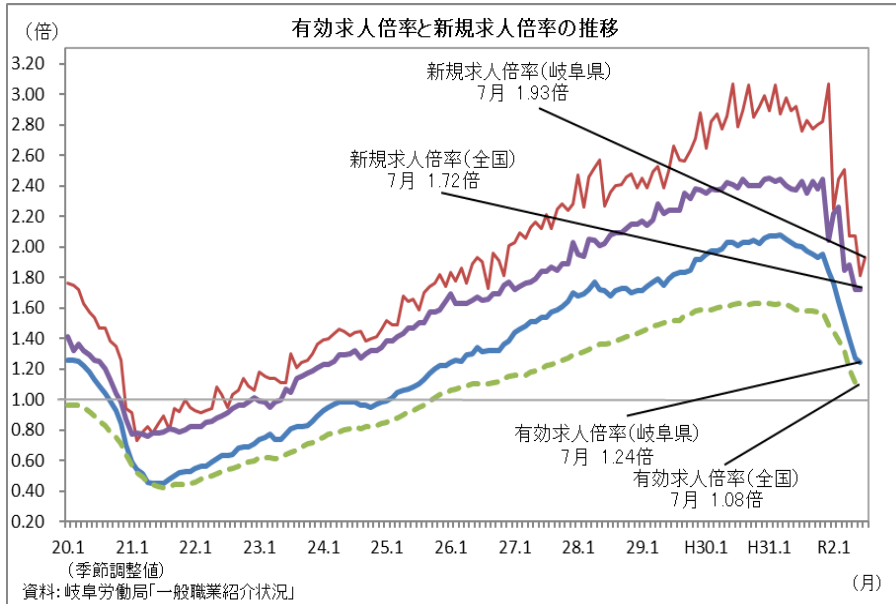
## 専門機関の分析(東京商工リサーチ)

- ◆借入金の返済猶予、各種緊急融資、持続化給付金、雇用調整助成金など、政府の金融支援策の利用は着実に広がっており、倒産を抑制する効果を生んでいるものの、すでに息切れを起こしている企業にとって各種制度を利用することに消極的な事例もあり、倒産を抑制しきるものではないと見る。「新型コロナウイルス」感染拡大の収束が見えない状況においては、中小・零細企業を中心に再び倒産件数が増加に転じる可能性は十分にある。
- ◆コロナ禍の影響で厳しい状況が長引くほど、経済の回復への道のりは陰くなるため楽観は出来ない。感染の第2波が目前に迫っている状況の中、企業倒産動向も注視する必要がある。

# 雇用

- 7月の有効求人倍率は1.24倍と前月比▲0.03ポイントと、7ヶ月連続で低下。
- 7月の新規求人倍率は1.93倍と前月比0.12ポイントと上昇。

- 7月の雇用保険受給者人員は、前月比31.3%と増加した。
- 年代別有効常用求職者は、全ての年代で前年同月比増加した。



## 現場の動き

- ◆受注が激減し、部署によっては人材が過剰になったが、一時的なもの判断し、人員削減には至っていない。(輸送用機械)
- ◆高卒の来春採用予定は今春比で半数とする予定。工場内の自動化が進み、人員が不要となってきた。(輸送用機械)
- ◆人手は欲しい状況。新型コロナウイルスで落ち込んだ生産の回復が想定より早く、現在は派遣社員で対応している。(金属加工)
- ◆人材派遣会社から売り込みの連絡が頻繁にある。(刃物)
- ◆人手が余っている状況にある。(繊維)



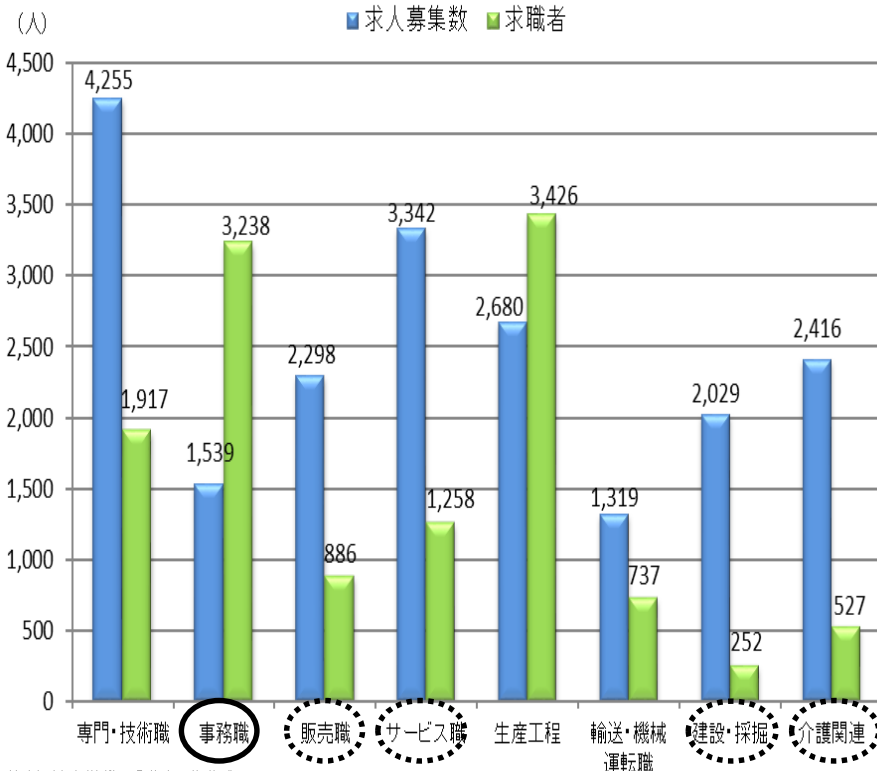
# 雇 用(職業別)

○有効求人倍率は、建設・採掘で8.05倍、介護関連で4.58倍、サービス職で2.66倍、販売職で2.59倍など、引き続き人手不足の状況は続いている。

○一方で、事務職の有効求人倍率は0.48倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

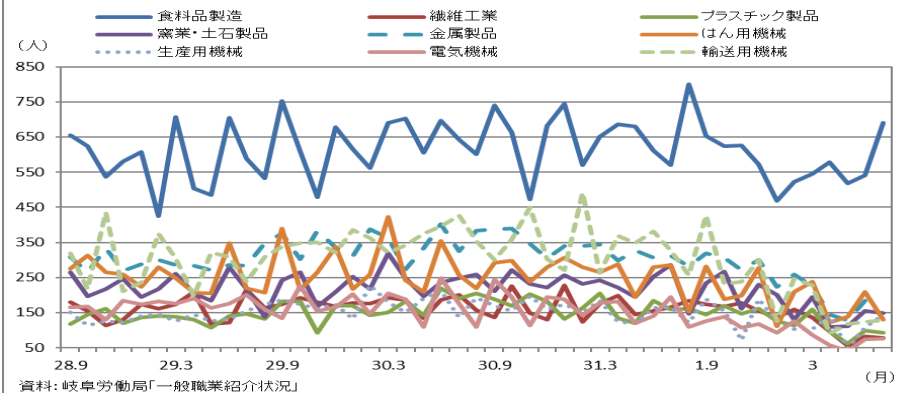
○7月の主要産業新規求人数は、食料品製造で前年同月比21.1%増加したものの、輸送用機械で前年同月比▲60.9%、電気機械で同▲60.5%、繊維工業で同▲52.7%、はん用機械で同▲54.2%、窯業・土石製品で同▲48.1%、金属製品で同▲45.4%と減少するなど、食料品製造以外の主要産業で減少した。

7月 職業別有効求人募集数・有効求職者数(常用)

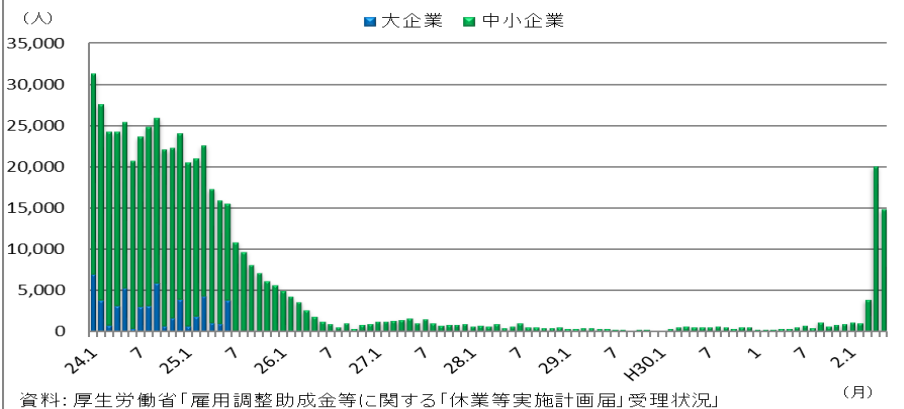


資料: 岐阜労働局「求人・求職」バランスシート

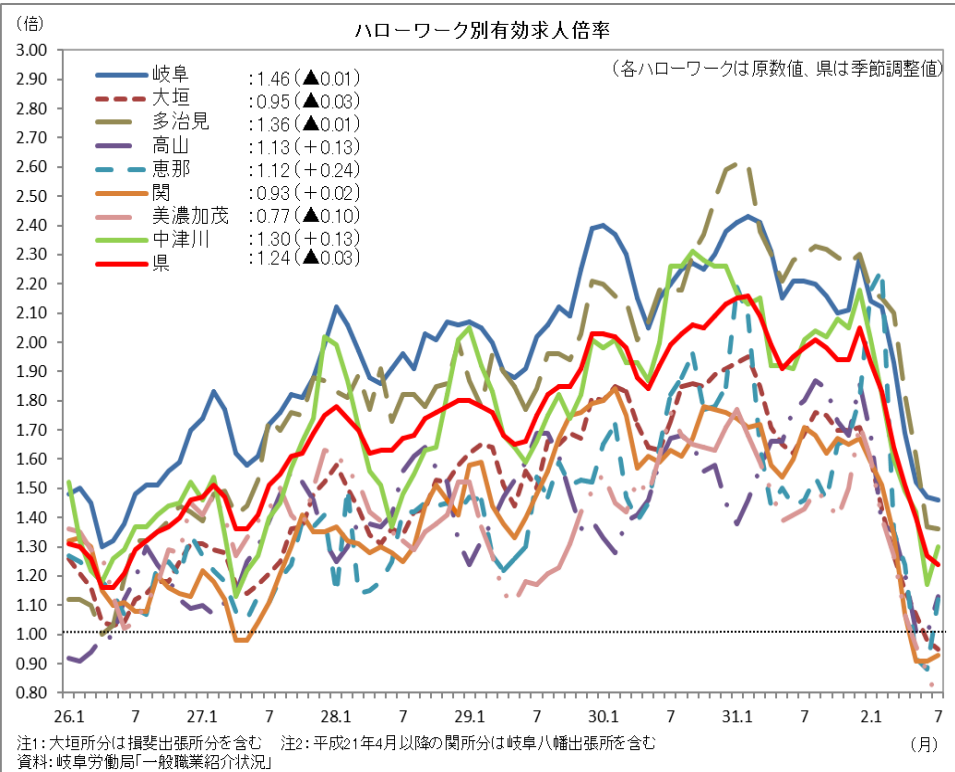
主要産業別 新規求人数(一般+パート)推移



雇用調整助成金の申請状況



# 雇用(地域別)



○7月のハローワーク別有効求人倍率は、大垣、関、美濃加茂で1倍未滿で推移している。前月比では、高山、恵那、関、中津川で上昇に転じた。

## 現場の動き(前月比)

### <ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数、求職者数ともに減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

### <ハローワーク大垣>

- ◆求人者数、求職者数ともにやや減少。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

### <ハローワーク多治見>

- ◆求人者数は減少、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

### <ハローワーク高山>

- ◆求人者数は減少、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

### <ハローワーク恵那>

- ◆求人者数、求職者数ともに減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

### <ハローワーク関>

- ◆求人者数はやや増加、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数はやや増加。

### <ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数、求職者数ともに減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

### <ハローワーク中津川>

- ◆求人者数は減少、求職者数はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

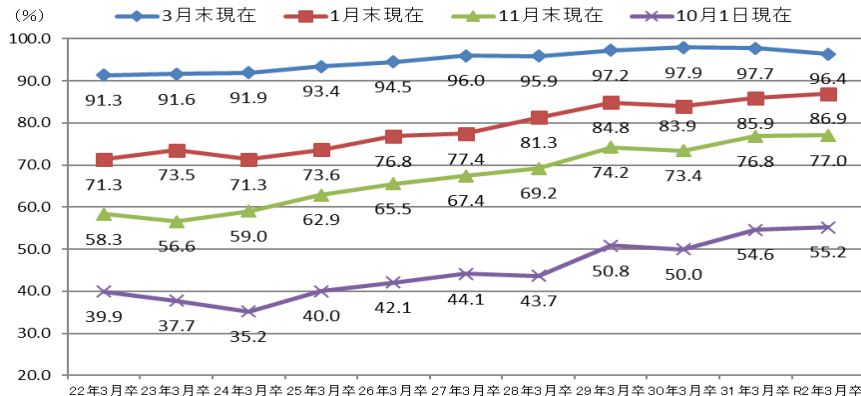
### <窓口の様子>※前月比

- ◆混雑またはやや混雑していたのは、高山と恵那のみであった。

# 雇 用(大学・短大新卒者の就職)

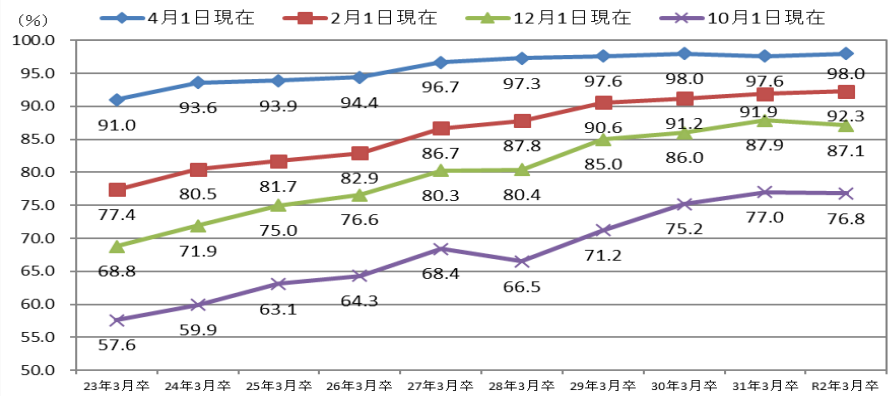
- 岐阜県の令和2年3月末時点の大学・短大卒業者(令和2年3月卒業)の就職内定率は、96.4%であり、前年同時点と比べ▲1.3ポイント低下した。
- 全国の令和2年4月1日現在の大学・短大卒業者(令和2年3月卒業)内定率は98.0%であり、前年同時点と比べ0.4ポイント上昇した。

新規卒業者(大学・短大等)の就職内定率の推移<岐阜県>



資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者(大学・短大等)の就職状況」

新規卒業者(大学)の就職内定率の推移<全国>



資料: 厚生労働省「大学等卒業予定者の就職状況調査」

## 現場の動き(2021卒の動きなど)

### <大学へのヒアリング>

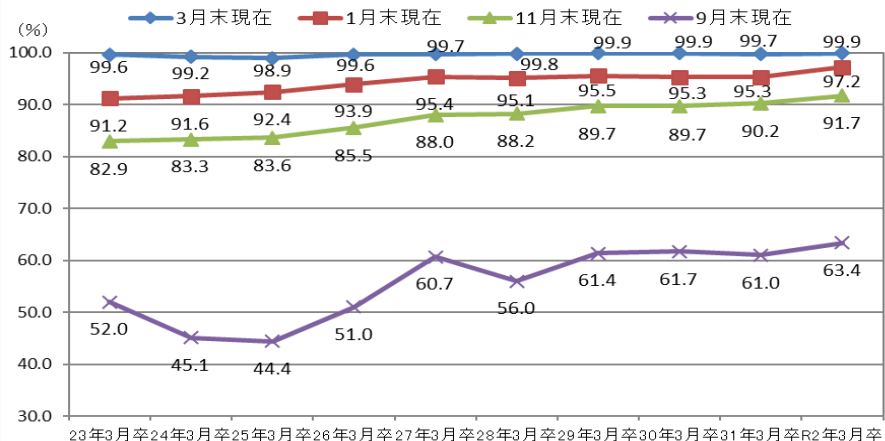
- ◆8月の相談内容の傾向としては、公務員試験の結果を受けて民間就職へ切り替えるにあたっての相談が多い。
- ◆21卒に対してWebで内々定の状況をリサーチした結果、内々定率が約65%であった。昨年同時期では75%ほどだったので、10%ほど下がっている。
- ◆21卒についての内々定の状況などはリサーチはしていないが、おそらく例年よりかなり悪いのでは、と推測している。
- ◆企業からの求人が減っている。昨年同時期に比べると企業からの相談が少ない。前期は授業がオンラインだったため、学生が孤立していないかメンタルの状態なども心配である。(以上、岐阜県内大学)
- ◆21卒の内々定率が7~8割ほど。休み期間中はあまり動けていない印象。22卒については危機感の強い学生が多い。おそらく現在インターンに行っている学生が多いと思われる。キャリアセンターへの相談はあまり多くはない。(以上、愛知県内大学)

# 雇用(高校新卒者の就職)

○岐阜県の令和2年3月末時点の高校卒業者(令和2年3月卒業)就職内定率は99.9%であり、前年同時点と比べ0.2ポイント上昇した。

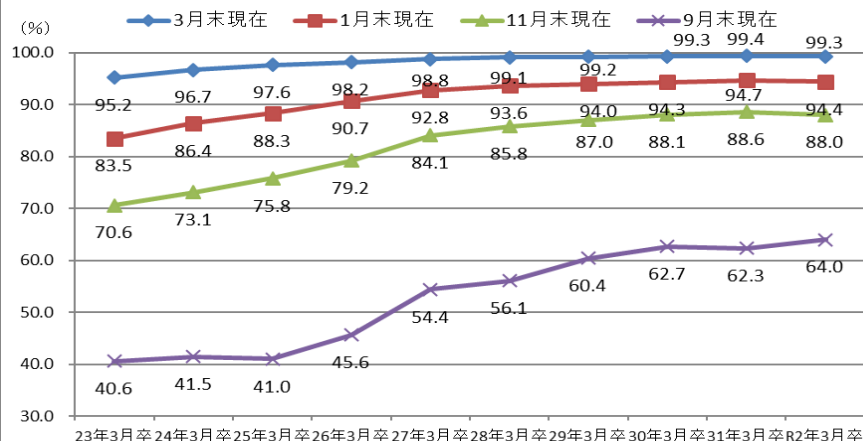
○全国の令和2年3月末時点の高校卒業者(令和2年3月卒業)就職内定率は99.3%であり、前年同時点と比べ▲0.1ポイントと低下した。

新規卒業者(高校)の就職内定率の推移<岐阜県>



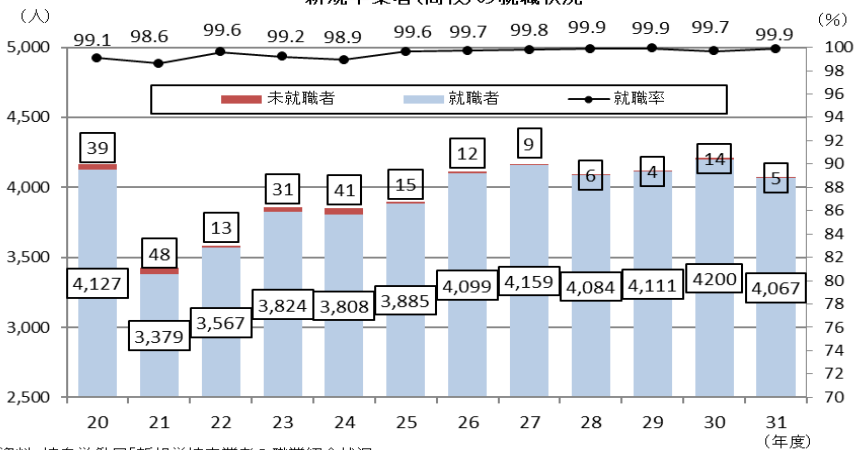
資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

新規卒業者(高校)の就職内定率の推移<全国>



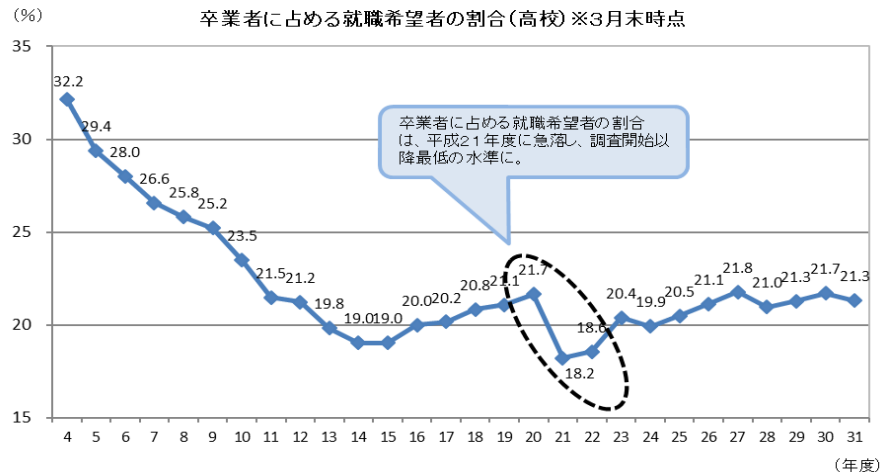
資料: 厚生労働省「高校・中学新卒者の求人・求職・内定状況(高校・中学新卒者)」

新規卒業者(高校)の就職状況



資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

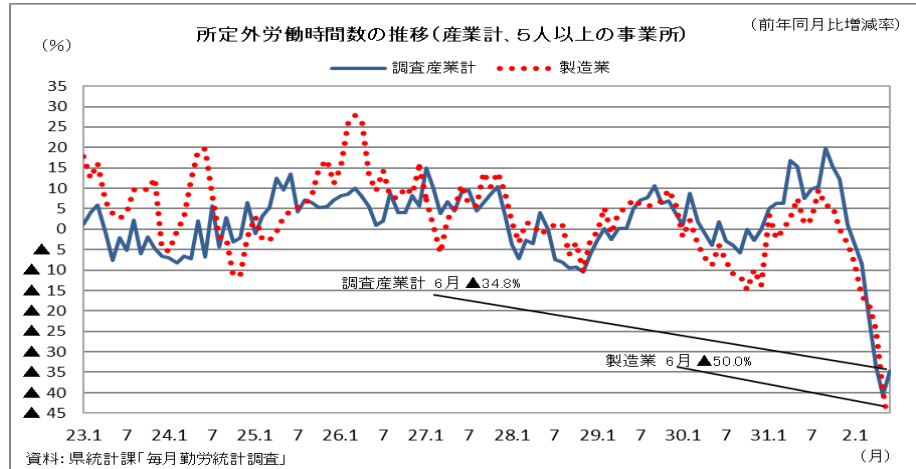
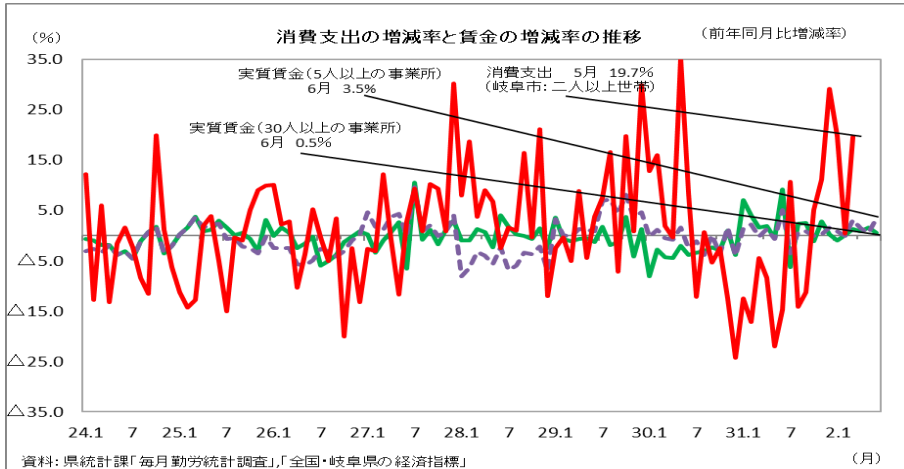
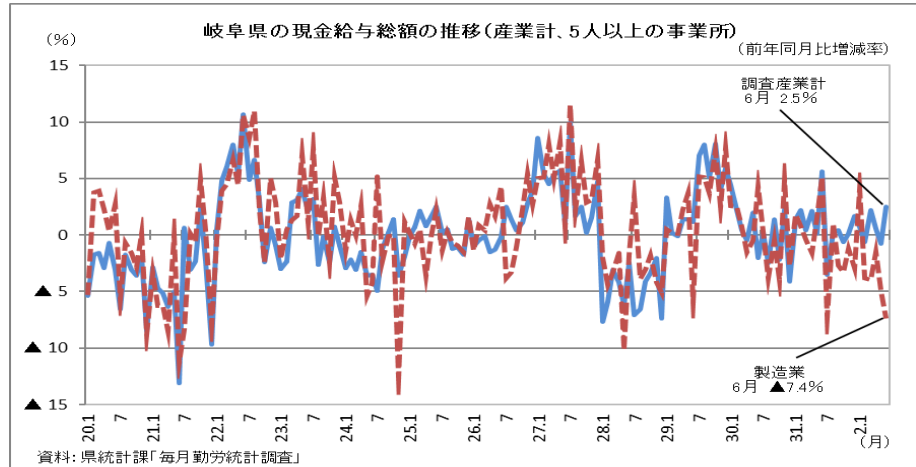
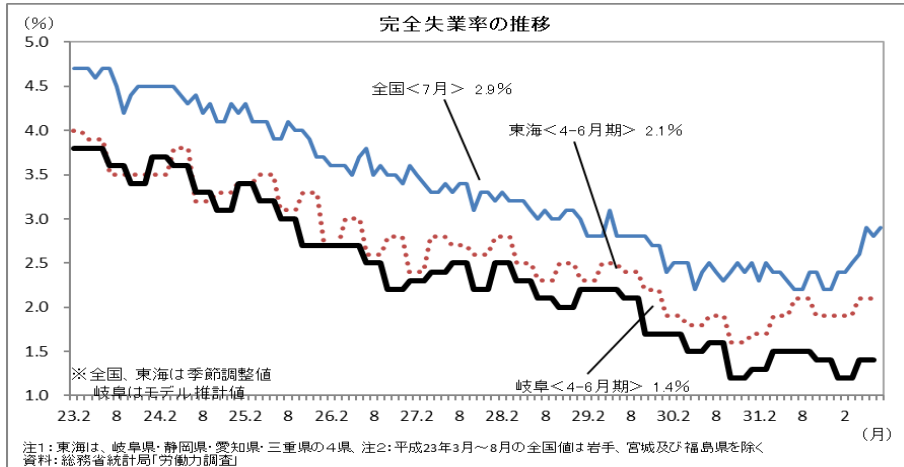
卒業者に占める就職希望者の割合(高校)※3月末時点



資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

# 雇 用(完全失業率等)

- 全国の7月の完全失業率は2.9%で前月比0.1ポイント悪化。岐阜県の4-6月期の平均は1.4%で前期比0.2ポイント悪化。
- 6月の現金給与総額は、調査産業計で前年同月比2.5%と増加、製造業では同▲7.4%と減少。
- 6月の実質賃金増減率は、5人以上の事業所は前年同月比3.5%増加、30人以上の事業所は同0.5%増加。5月の消費支出については同19.7%と6ヶ月連続で増加した。
- 6月の所定外労働時間数は前年同月比▲34.8%と6ヶ月連続で減少した。



# ＜経済・雇用の現状（総括）＞

- 製造業は、6月の鉱工業生産指数では、主な産業の全てで上昇した。ヒアリングにおいては、7月から回復傾向にあるとの声や、受注及び売上は9、10月には例年程度まで回復するだろう、との声など、回復基調にあるという声が多くあった。
- 地場産業は、6月の鉱工業生産指数では、食料品とパルプ・紙を除いて低下した。ヒアリングにおいては、4月に比べれば状況は改善されたが、前年同時期と比較し半分程度の売上に留まる、との声が聞かれるなど、以前として厳しい状況にある。
- 設備投資は、7月の金属工作機械受注額について、前年同月を下回った。前年同月を下回ったのは、国内向けは20ヶ月連続、海外向けは21ヶ月連続となった。ヒアリングにおいては、設備は老朽化しているものの、先行きが不透明につき様子見をしている、などと、設備投資を控える動きが目立った。
- 個人消費は、小売店の7月の販売額について、コンビニでは落ち込みが続いたが、ホームセンターや家電大型専門店等の販売が増加し、全体では前年同月比で6ヶ月連続の増加となった。ヒアリングにおいては、自粛期間の後の反動需要の終わりを指摘する声が聞かれた。
- 観光は、前年と比較し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、観光地、宿泊施設ともに前年同月を下回った。インバウンドは、ほぼゼロに近い数字となった。ヒアリングにおいては、新型コロナウイルス感染症拡大の第2波や豪雨によるキャンセルの影響が大きかった、という声が目立った。
- 企業の資金繰りは、7月の制度融資実績で、前月に続き、件数、金額ともに前年同月比で大きく増加した。金融機関からは、5～7月までは借入の申込が多かったが、8月には落ち着きが見られ、資金調達が一巡しつつあるのではないか、という声が聞かれた。
- 雇用面は、7月の有効求人倍率は、1.24倍と7か月連続で低下した。ヒアリングにおいては、生産回復が想定より早く人手不足との声もあったが、受注が激減し人手が過剰になったとの声や人材派遣会社の売り込みが頻繁にあるなどの声が多く聞かれた。